

外観



地上8階、地下1階建ての南病棟。13診療科が入り、総病床数は198室、414床。屋上にはヘリポートも完備している。

4床室 洗面所



4床室の洗面所にも、車いす使用者に配慮して「車いす対応洗面 共用向け」を設置。カウンターとボウル部に継ぎ目がないポウルー一体タイプなので清掃性にも優れている。

入院フロア 共用トイレ



すべての入院フロア(1F-8F)の共用トイレ(2250mm×2000mm)には、大便器に腰掛けて、いつものように排尿するだけで尿流率と尿量を測定できる「尿流量測定装置(フロースカイ)」を採用。

4床室 トイレ



トイレ内に手洗器を備えた個室完結型のトイレ(1500mm×1700mm)。ノズルをきれいに保つことができる『きれい除菌水』機能を備えたウォシュレットを設置している。

個室 洗面所



個室の洗面所には、高齢者や車いす使用者にも配慮した「車いす対応洗面 居室向け」を設置。

B1F 共用トイレ



大便器には、ノズルをきれいに保つことができる、『きれい除菌水』機能を備えたウォシュレットを設置。洗面カウンターは、車いすでのアプローチ性と清掃性に配慮した、ポウルー一体カウンターを設置している。

B1F 共用トイレ



小便器は、床の清掃性や節水性に優れた壁掛式の自動洗浄小便器を採用。足元には尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減する「ハイドロセラ・フロア」を設置している。

感染対策専用泡沫キャップ(特注品)



南病棟の水栓金具は感染対策の配慮から、吐水口に清掃性に優れたステンレス製の専用泡沫キャップ(特注品)を装着している。

B1F 車いす対応トイレ



車いすから移乗しやすいように、はね上げ手すりとL型手すりを備えた車いす対応トイレを設置。

汚物処理室



汚物処理室には、詰まった異物を簡単に取り除くことができる「掃除口付きフチなしトルネード汚物流し」を設置。感染予防として非接触のセンサー式洗浄タイプを採用している。

水まわりの特長

<施設の概要>

京都大学医学部附属病院では、より高度で快適な医療施設を目指し、病院再整備計画を推進。東西構内にわかれていた病棟を東側構内に集約化する再編計画の一環として新たに南病棟を建設。南病棟では、糖尿病や脳卒中、腎臓病、歯周病といった生活習慣病に対応できる医療体制を集約。鉄筋コンクリート造の地上8階、地下1階建て。病室内の照明は時間帯で明るさや色合いを変化させ、入院患者の生体リズムを乱さないよう工夫されている。災害発生時の対応強化や重症患者の転送・受入さらに臓器移植時の搬送が、遠隔地であっても迅速にそしてスムーズに対応できるように、同病院では初となるヘリポートも完備している。

<水まわりの特長>

病室や共用スペースの洗面所には、車いす使用者に配慮して「車いす対応洗面」シリーズを採用。大便器は衛生面に配慮して、ノズルをきれいに保つことができる『きれい除菌水』機能を備えたウォシュレットを設置している。そのほか、病棟トイレの一部には、用を足すだけで尿流率や尿量を測定できる「尿流量測定装置(フロースカイ)」を採用するなど、病院の水まわりに求められる、高度な機能性、利便性や衛生性にきめ細かく配慮されている。